今日も一日安全に！

トラックドライバー日誌2

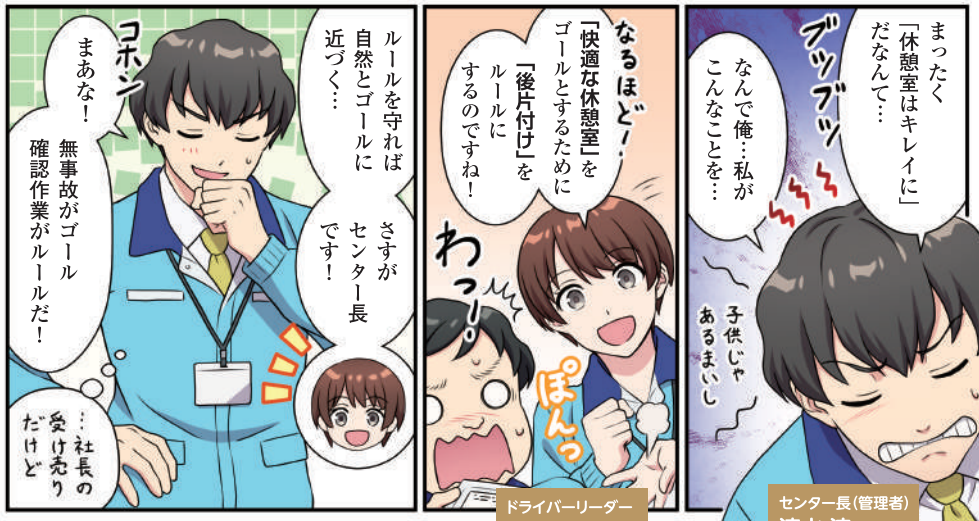
現場を知るドライバーから、管理者へと歩みを進めた速水。ドライバーリーダーとして仲間の先頭に立つ綾瀬。管理者やドライバーに求められる取り組みを、それぞれの視点から紹介していきます。

第7話
ルールは自分を守る約束事



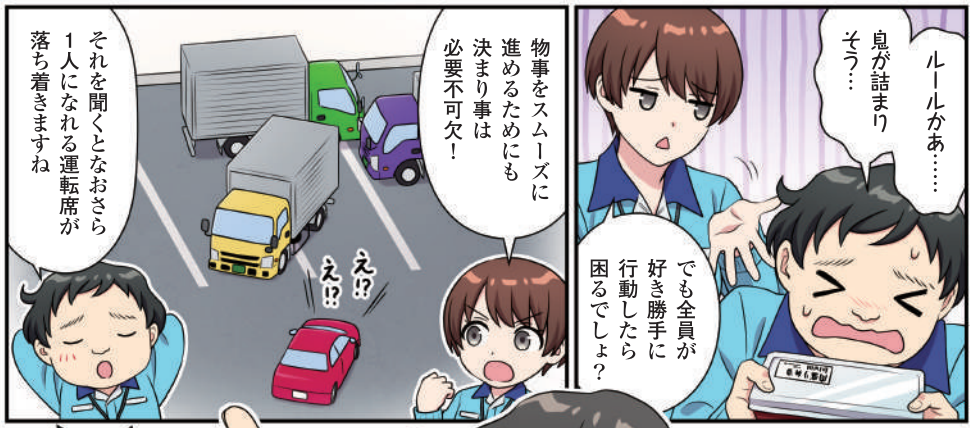
ドライバー
細木 剛(41)





ドライバーリーダー
綾瀬 小陽(25)

センター長(管理者)
速水 涼(37)







ルールのルーツについて詳しくは
解説ページで

今日も一日安全に！
トラックドライバー日誌2

ルールは自分を守る約束事

自社の弱みを、ルール化で強みに

自社の弱みを社内ルールに反映して、その取り組み状況をホームページやSNSで発信してみてはいかがでしょうか。課題が強みへと変われば、キャッチフレーズとして名刺に記載することも可能です。

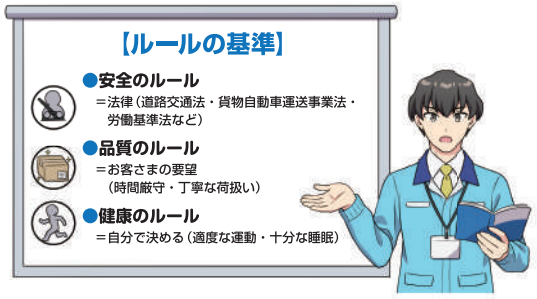


「やらされるルール」を「自社の強み（文化）」に変換してみましょう！

マンガ制作：トレンド・プロ

ルールの基準を“見える化”しよう

ルールの本質（ルーツ）を理解すると、「言われたからやる作業」が「自ら考え動くプロの仕事」に変わっていきます。想定外の事態でも優先順位に迷わず、常に正しい判断を下せるようになるため、仕事を極められます。



ルールの「ルーツ（本質）」を知れば、現場で迷いなく正しく判断できるでしょう。

安全と品質を高める社内ルールは「仕事の教科書」

管理者・トラックドライバー、双方の視点から必要な心構えや事故防止ノウハウを紹介していきます。

過去から学ぶ「安全の法則」

ルールとは、過去の失敗例から生まれた「成功するための方法」といえます。安全に関する国の法律や会社の規則も、過去の事故事例をもとに作られたものです。そのため、「法律＋規則＝安全を確保する法則」と捉えて業務に取り組みましょう。

守るべきルールの第1位は「法律」であり、これは運送事業を継続するための絶対条件です。そう位置付ければ、お客さまからの依頼である「貨物の到着時間」と、法律で定められた「運転時間や拘束時間」のどちらを優先すべきか、現場でも容易に判断できるのではないでしょうか。

まじめな人を守る「仕事の教科書」

「事故を起こさない」というゴールに対し、「決められたルールを守り抜く」のが安全のプロの姿です。ルールは、守らない人がいるから存在するという見方はもちろんですが、「守っている正しい人が、適正に評価されるため」にもあります。まじめな人が報われるよう社内規則を整備し、組織内で一番の模範者を「動くマニュアル」として評価しましょう。そのマニュアルを支える共通の土台こそが、ルールという名の「仕事の教科書」です。これを社内に浸透させるプロセスは、次の3つになります。

一、「教科書を渡すだけ」でなく、社内研修で教える。
二、教えた範囲で達成度を評価し、「仕事の通知表」とする。
三、評価を継続して励みとし、正しい行動を「習慣」にする。

多くの社員が車輪止めの正しい装着や指差呼称などで同じ習慣を身に付ければ、それは確固たる会社の文化として根付きます。

明日を守る「みんなとの約束」

ルールを徹底することは、会社の業績向上に欠かせません。業務品質のルール順守はお客さまからの感動を呼び、売上向上に貢献します。また安全のルールを守り抜くことは事故や無駄な経費を削減し、社員の幸福と利益をもたらします。

単独での運転時や客先訪問時にも安全や品質のルールを意識する理由は、「自身の健康と明日の生活を守るため」に他なりません。さらに、自社の弱みをルールに反映してホームページやSNSで発信し、課題を強みへと変えれば、名刺のキャッチフレーズなどに活用することも可能です。ルールを単なる「規則」ではなく、「みんなとの約束事」と表現を変えれば、こうした取り組みもより現場へ浸透しやすくなると思います。



高柳 勝二（たかやなぎ かつじ）
株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。